

01 | イノシシ被害防除



1 イノシシの生態

- 脂肪をつける必要が無いので、夏にはあまり食べない。冬を越すのに脂肪をつけるために、秋に食べる量が増える。
*この餌を減らすことが重要!!（里（農業）の餌をとられないように工夫する）
- イノシシが去った後には痕跡が残る。
 - ・ヌタ（泥遊び）：微生物をとるため、暑いからなど諸説あり
 - ・副蹄がある足跡：イノシシの可能性高い（シカではない）、Vサインが特徴
 - ・木に泥がつく：体をすりつけたあと（体がかゆい、マーキング）
 - ・草に泥がつく：イノシシが通ったあと
- 性格は臆病で、警戒心が強いが慣れると大胆。
*一度安全だと思った道は堂々と歩くが、基本的には決まったルートを歩く。
- 臆病であるため、環境確認のために探索行動をとる（ここで電気柵が活躍）。
- 繁殖サイクルは早く、餌が豊富であれば、1歳未満で子供を産むこともある。
- 足跡を確認し、副蹄（ふくてい）がついていればイノシシである可能性が高い。

イノシシの足跡

副蹄

シカの足跡ではほぼみられません

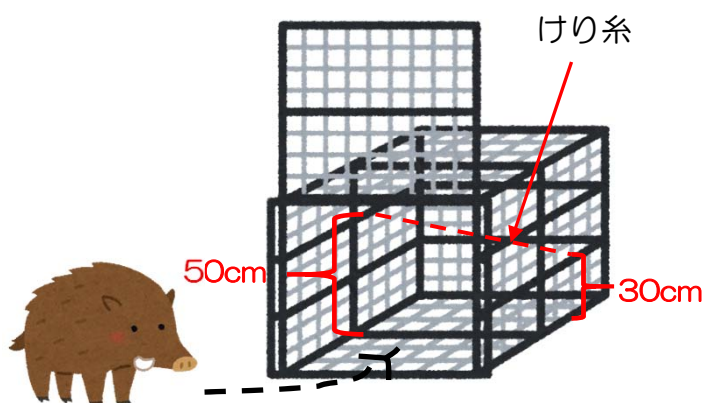
2 柵、わなの設置におけるポイント

<ネット柵、ワイヤーメッシュ>

- 下に隙間ができないように設置、管理する。
*もぐりこみが得意なので、隙間があると、すり抜ける（鹿も同じ）
*6mm径程度の柵であれば、鼻で曲げて持ち上げるくらいの力がある
- 人間の気配を怖がるので、柵の周りは定期的に草刈りや見回りをし、人の臭いを残す
*雨の後は臭いが消えるので注意!!

<箱わな>

- わなのけり糸は、片側は50cmの高さ、もう片側は30cmの高さにして斜めにかけるとよい。
- 山際でイノシシを捕獲するときは、餌のない時期に捕獲するのが効果的である。



3 捕獲のポイント

<電気柵>

- これまで田畑の周りを取り囲む設置方法が主流であったが、長期的に被害を防止するためには、山際に柵を張り「人と獣の棲み分け」をすることが大切である。
- 防除のためには、「死」を連想させることが大切。
 - *においや音、光などは、はじめは警戒するが、すぐに効果がなくなる。
 - *痛みを覚えさせる電気柵は「死」を連想させるため、非常に効果的。
- 電柵は、くぐったり跳び越えたりすり抜けたりしにくい20cm間隔で張る。
 - *20cm間隔でマークをつけた棒を横に合わせて確認（斜面では特に注意!!）
 - *張るときも点検のときも“イノシシの目線”で柵を張る。
 - *イノシシの足が地についた状態で鼻に触れるようにする。
- アースは10cm以上の深さに埋める（草刈り機で切られることが多いため）
- 傾斜の際（きわ）に張ると跳び越えてしまうので、イノシシが山から降りてきて探索するスペースを作って張る。
- 電柵を設置したらすぐに電気を流す（安全と思わせてはいけない）。
- 電線が緩んでいるのは、イノシシが触って驚いてひっかかった可能性が高い。
⇒点検時にこれをピンと張りなおす。
- 草木が接触したり、雨が少なく土壤中の水分が減ると電圧は下がるので注意!!
（電圧はデジタルテスターで確認できます）

4 講習会での質疑応答

- Q. イノシシが入った田んぼで収穫したコメはにおいがつくと聞いたが本当？
- A. 歩いただけでは、においはほとんどつかない。
獣が臭いのは、止め刺し時に出る血液が酸化するにおいであることが多い
- Q. たけやぶ（たけのこをとる藪）が激しく荒らされるが、どうすればよいか？
- A. たけのこを収穫したい範囲を決めて、その周りを囲うように電柵を張る。
そのほかの部分は不要ならば、切ってしまうのが一番良い。
- Q. イノシシの忌避剤に効果はある？また、嫌いなにおいはある？
- A. 忌避剤の効果はあっても一時的なものが多い。
特に嫌いな臭いは知られていない。
- Q. 捕獲にはどんな餌を使えばいい？
- A. サツマイモ、果樹などは、イノシシが里の味を覚えてしまう。
里に下りてこないイノシシを作るためにも、「米ぬか」がよいと思う（諸説あり）。
- Q. 餌には塩が効果的と聞いたが、本当？現在は、米ぬかと粗塩を餌としている。
- A. 効果的。イノシシも塩分を欲しがるといわれる。

